

社会的課題解決型事業

障害者 3D プリンティングドリームファクトリー

On-line

事業構想
2017/05/23版

問合せ先 :
E-mail :
電話 :
[Redacted]

2013年から香川で始まった「障害者が 3Dモデルソフトと 3Dプリンタを使って、障害者の日常生活のちょっとした不便を改善するグッズを、ひとり一人のニーズに合わせて自分たちでつくる」活動を、新しい「仕事づくり」活動として、大阪高槻から全国へ！



障害があることに価値が生まれる3Dプリンタを活用した「新しい働き方」誕生！

「新しい消費者」と
大量生産・大量消費の産業構
造と違う市場も誕生！
スピードと安さを求める
ギスギスした消費社会の
消費者ではない、
作り手と一緒に試作と試用
を繰り返すことを楽しむ
新しい消費者が
福祉分野から誕生！

「障害者が3Dモデルソフトと3Dプリンタを使って、障害者の日常生活のちょっとした不便を改善するグッズを自分たちでつくる」活動を実現するためのステップと目指す社会

3Dプリンタを備えた「障害者3Dプリンタファクトリー」が全国各地で誕生し、障害者が気軽に“3Dデジタルものづくり体験”できるようになる



障害者のための不便改善グッズをつくるために
3Dプリンティングを習得したい障害者が次々と名乗りを上げ
教育プログラムを受けるようになる



自分で「モノ」がつくれる喜びに加えて、
自分がつくれたものが他の障害者の役に立つ成果を体験することで
生きがいややりがいを見つける障害者が増えてゆく



**障害があることに価値が生まれる
障害があるからこそ分かる・思い付く「かたち」を自分でつくる。
3Dプリンタを活用した「新しい働き方」を生み出します**

本プランを実現するために必要な活動 – 1. 啓発・普及活動

本プランの仕組みや効果などが、まったく知られていません。まず、知っていただくこと。
そして、これは面白そうだ、楽しそうだ。やってみたい！という障害者を多く掘り起こす活動が必要不可欠です。

障害者のための 3Dプリンタ ハウツー本の出版 ～不便改善グッズ 3Dデータ付き～



- ・150ページオールカラー
- ・Amazon等の電子書籍化
- ・付録として3Dデータを付ける
- ・日本全国の書店での販売
- ・初版2,000部
- ・出版編集専門家との協業

3Dプリンタ体験 ワークショップ・キャラバン ～いつでもどこへでも出動OK!～



- ・1500ccクラスの車両を簡易改造
- ・デモンストレーション体験用3Dプリンタ2機種積込み
- ・車いす同乗可能な福祉車両
- ・専用パソコン2台

障害者 3Dプリンタファクトリー プロジェクト専用Webサイト ～オーダーメイド注文受け機能付き～

- ・啓発・普及コンテンツ
- ・Facebook, Twitter連動ページ
- ・ワークショップキャラバン依頼・申込フォーム
- ・オーダーメイド注文フォーム等
- ・チャリティ広告バナー掲載

※追加動画コンテンツ
活動の様子や制作過程紹介
動画制作費；約200万
(シリーズ5本程度)

本プランを実現するために必要な活動 – 2. 障害者向け教育プログラムの開発と提供

（1）障害者向け教育プログラム開発のための実験的教育講座の実施

- ・障害を持つ方々の日常生活の状態は多種多様であり、パソコンの操作の仕方、そのスピードも様々です。
例えば、車いす生活だが両手は自由に動く方。半身マヒの方。手・指などに障害があり、パソコン操作に時間がかかる方。
これらの身体の状態に加えて、発語しにくい方（講師が聞き取りにくい方）などコミュニケーションに課題のある方。
1回あたりのパソコンに向かえる時間に制限のある方。
- ・こういった受講生に対して、3Dプリンティングのこと、そして3Dモデリングソフトの操作、立体の「モノ」をつくる時の留意点など、カリキュラム内容は多岐に亘ります。一般の方向けの3Dモデリングソフトの講座は数多くあり、カリキュラムを整っていますが、それらの基本的なカリキュラムに加えて、様々な障害のある方にどのように教えて行けば良いかを考え、試行し、障害者向けカリキュラムを開発する必要があります。

（2）障害者向け講座の講師の育成…1、2年後には障害者の受講生が講師役！

- ・教育カリキュラムの開発と並行して、講師の育成が必要です。
- ・3Dモデリングソフト講師は、現在でも人材が不足している状態です。障害者向けの講座の講師には、3D-CADを学ぶ学生などが適任と想定されますが、その講師陣を教育する専門家は必要で、そのコストは通常の市場でのコストと同等な額が必要となります。
- ・但し、学生講師が担う実際の講師役については、本カリキュラムをマスターした障害者の中から、教えることに適した人材を発掘し、「障害者に3Dソフトを教える」というひとつの職業として位置付けたいと考えています。



教育講座の開講



外出し辛い障害者向け オンライン・トレーニング (又は近隣に講師がいない方向け)

本プランを実現するために必要な活動 – 3. マーケティング活動

本プランでは、チャリティ活動やクラウドファンディング等で集まった資金を基に、継続的な事業として運営できるように、広いエリアから、「こんなものを作れないか」「こんな不自由を改善できるグッズが欲しい」などのオーダーメイド製品の受注を目指し、「障害者 3Dプリンタファクトリー」センターが共同受注窓口として注文を集め、各地の障害者に仕事を振り分けることを目指します。

障害者 3Dプリンタファクトリーの ブランディング

- ・キヤッチフレーズ、製品名のネーミング他
- ・Webサイト、製品パッケージ等のデザイン
- ・コンセプトを伝えるメッセージMovieの制作



販促プロモーション

国際福祉機器展、バリアフリー展、全国肢体不自由児特別支援校校長大会、日本特殊教育学会大会などの福祉関連イベントをはじめ、様々なイベントにブース出展をし、活動の啓発・普及と受注のための販促活動を行います。



3Dプリンタでつくる不便改善グッズ ユニバーサル・アワード「ちっちゃな幸せ実現大賞」創設

区分	ロジックモデル（ツリー図）
最終アウトカム (事業により達成したい状況)	<p>障害があることに価値が生まれる3Dプリンタを活用した「新しい働き方」が定着し、その労働に対して対価を払う新しい消費者層=市場も出現し、共に充実した明るい生活ができる社会</p>
中間アウトカム (最終アウトカム実現のために達成したい目的)	<p>小さなニーズに個別に応える 個人事業主「障害者個人メーカー」が全国各地で誕生し、 障害者のオピニオンリーダーが出現。 障害者主体の供給チームが形成される。</p> <p>スピードと安さを求めるギスギスした消費社会の消費者ではない、 作り手と一緒に試作と試用を繰り返すことを楽しむ 新しい消費者が福祉分野から誕生し、増幅する</p>
初期アウトカム (中間アウトカム実現のための手段)	<p>3Dプリンタを備えた 「福祉Fab GATE」が全国各地で誕生 障害者が気軽に体験できるようになる</p> <p>3Dプリンティングを習得したい障害者を募集し、トレーニングを提供する</p> <p>自分がつくったものが他の障害者の役に立つ成果を体験することで 自己肯定感が向上する</p> <p>3Dプリンタを使った、一人ひとりの違ったニーズに1点づつ対応できるサービスを周知し、障害者・家族・支援者・支援機関から注文を集める</p>
具体的活動 (初期アウトカム実現のための具体的な事業内容)	<p>リアル講習会と、テレワークを視野に入れた在宅障害者向けの オンライン・レーニングの2つの教育カリキュラムを提供する</p> <p>共同受注センターとして「福祉Fab GATE」が 営業活動やWebプロモーションを行う</p> <p>PR用の書籍の出版 (電子出版から全国書店販売へ)</p> <p>実際に見て触れて知る 「福祉Fab GATE」ワークショップの開催</p> <p>事業PRと全国からのオーダーを募る共同受注窓口 「福祉Fab GATE」Webサイト制作</p>

2017年5月-7月期の活動

3Dプリンティングと3Dモデリングソフトを使って、ものづくりにチャレンジしたい！
という、障害者の方の参加を募っています。

この取り組みを取り入れてみよう！という障害福祉分野の支援者、支援事業所、施設、学校などを探しています。（高齢者介護分野も含む）

この取り組みとコラボレーション、協働などをしてみよう！という、
Fab Lab, Fab Space, 3Dプリンティングの分野の企業・団体を探しています。

こんなモノが3Dプリンタでつくれるのだったら、「こんなかたちのモノ」「この不便を改善できるモノ」を作ってください！という、ご相談・ご依頼も受けています。

⇒これらの前段として、「まずは、詳しい話を聞きたい」という方、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先 :

E-mail :

電話 :